

「神には何でもできるからだ」

2022年03月25日

弟子たちはこの言葉を聞いて驚いた。イエスは重ねて言われた。「子たちよ、神の国に入るのは、なんと難しいことか。金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通るほうがまだ易しい。」弟子たちはますます驚いて、「それでは、誰が救われることができるのだろうか」と互いに言った。イエスは彼らを見つめて言われた。「人にはできないが、神にはできる。神には何でもできるからだ。」(マルコ福音書 10 章 24 節～27 節)

一人の男が主イエスにひざまずき、「永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか」と問うた。主イエスは、彼の問題の全てを見抜いて、モーセの十戒の戒めを知っているはずだと言われると、それらの戒めは子どもの時から守っていますと答えた。彼は裕福で、律法を守る真面目な生活をしてきた。しかし、生きている充実感が持てないので、問いかけたのである。主イエスは答えられた。足りないことが一つある。持っている物を売り払い、貧しい人々に与えなさい、そうすれば、天に宝を積むことになる。そして、私に従え、と。彼は持っている物を捨てることができないと、肩を落として、主イエスの前から立ち去った。永遠の命より、今まで通りの生暖かい生活に戻ってしまったのである。持っている物を売り払い、貧しい人々に与えよという言葉は、文字通り、全財産を捨てよという意味ではなく、生きることに苦悩している人々に目を留め、彼らと命を分かち合う生き方をしなさい。そこに、愛する隣人を得て、充足した生活が得られるとの諭しである。

弟子たちは、主イエスと富める男の会話を聞き、立ち去って行く後姿を見送った。すると主イエスは彼らを見回して「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか」と言われた。彼らは驚いた。豊かになることが神の祝福に与ることだと信じていた。それと真逆の言葉を聞いたからである。主イエスは驚く彼らに重ねて、「『子たちよ、神の国に入るのは、なんと難しいことか。金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通るほうがまだ易しい』と言われた。」正しい者が祝福されて豊かになり、悪しき者は呪われて貧しくなると受け止めていたところが、金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通るほうがまだ易しいと言われたのである。主イエスは、金持ちが周りの者たちから収奪する経済構造をよく知っておられたのである。当時、門は二つあり、一つはらくだが通れるほど大きな門があり、隣にもう一つ、人がかがんでしか通れない小さな門があった。その小さい門を「針の穴」と言うが、らくだは当然通れない。そのらくだが「針の穴」を通るほうがまだ易しいと言われるのを聞いて、弟子たちはますます驚いて「それでは、誰が救われることができるのだろうか」と互いに言った。誰が救われるのかという弟子たちの疑問は、富める男に持ち物を売り払い、貧しい人々に与えよと言った言葉からのものである。

主イエスは彼らを見つめて、「人にはできないが、神にはできる。神には何でもできるからだ」と言われた。自分の決断だけで、持ち物を売り払い、貧しい人々に与えることなどできない。主イエスは、人にはできないが、神には何でもできると神の全能を語られた。ここに、神がしてくださるという解放がある。ペトロは、「このとおり、私たちは何もかも捨てて、あなたに従って参りました」と言い出している。主イエスは「よく言うておく」と注意を喚起し、主イエスのため、また福音のために、家、家族、畑を捨てた者は、この世では迫害を受けるが、百倍を受け、来るべき世では永遠の命を受けると約束された。これは、迫害を受けた初代教会の事情を反映し、永遠の命を望んだ彼らの信仰を言い表している言葉であろう。